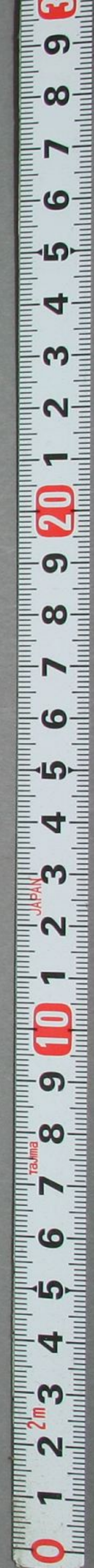


時世糖 第二

特別  
A5  
6576  
2



時世粧卷之二目錄

春



元旦

水祝二

若菜三

梅

雪

土筆

具足解

花振舞

霞

春河

雪

春田

春月

新能

但祿縁

春田

蕨

春駒

蝶

燕

雀子

巢鷹

松石緑

柳

草餅

桃

椿

辛夷

金續花

花

櫻

藤

款冬花

茶摘

春郭公

水日

時世歌春部 只白

元日 風虎

此の春有頃天気がよしや流代の

中井宗隆

年も人毛尻らに拍や今日の

多やくも年々をさすの春

甲八歳 風虎

年とて山々かき入るるやをの

服部経真

人の氣ふ花の咲けりの春

上田元村

言の葉やゆけりの春

行世書行

元子棚見や納るの春

小谷孝明

果物に群るの春

多取好友

多取の御守の御守の御守

出井屋計

年徳の縁起をいふ暦の巻

行下考

多取の御守の御守の御守

御守

神と人の御守の御守の御守

男

よせの御守の御守の御守

御守の御守

王城の御守の御守の御守

日陽の御守

いせの御守の御守の御守

大山の御守

門の御守の御守の御守

蓮華の御守の御守の御守

京の御守

あまの御守の御守の御守

判田の御守

蓮華の御守の御守の御守

林の御守

屠蘇の御守の御守の御守

富の御守

寛文の御守の御守の御守

御守の御守

君の御守の御守の御守

御守の御守

少神の御守の御守の御守

小田の御守

出神の御守の御守の御守

源東葉

少初名そのうとよみり習成

赫魚子規

少初名そのうとよみり習成

淡人志

淡人志

中村常

中村常

谷口直

谷口直

西村直

西村直

紙屋普

紙屋普

葉門直

葉門直

路坂直

路坂直

池田直

池田直

一志直

一志直

朝比奈直

朝比奈直

河原直

河原直

水直

水直

法田直

法田直

葉

葉

中尾弘次

書くは七草や又六ねん子

源孝田不及

流心人毛勢が至腰へ掛れ在

埋古草

尋てこそ有かたもせやけりこ

小石古草伯

かろへ人のまじけりや言葉

梅

日野好久

梅乃古枝蒼トの字たまり哉

野沢仙言

目入を鼻へての苑の白雲

寧海由之泉亭一三

梅さけしむも白く成る哉

柳江口

名とるるや歌波を人多梅也

行下書丸

江南北梅はくしを筆の海

連平書好 河田清下

紅梅のかりや流石の神を好

書

赤松光通

梅や流石をよめるもいふを好

真言傳心

書や花乃波下枝を好

おと目え志

書に毛書ふもよめるも好

本居宣武 徳

書乃筆也流石のり琴の凡

窪田正好

二川よ又琴や書うも此声

古筆

成田頼元

古筆志のよも書乃林哉

白根勝政

草花名とたり西の初し

具足解 唐吉光

春のまゝに習ふと白く具足解

若く推舞 五五庵

二月廿五日の夜親子中

吹田舎徳

袴腰のまゝに山崎うら

紅豊自焚

雲の中を舞えよ戸々春乃山

快存有林

紙よりぬ梅葉をちりやまゝに

大久保徳永

笈道と一夫よるはるはる

三梅光弘

日阿のまゝに春のまゝに

春詠

三梅光弘

春陽此まゝ也 雪乃雪とまゝ

まゝ

細入口資近

一時の榮花をいんじんまゝの音

まゝ

竹下孝丸

雪は隙のまゝに雪音時々の音

まゝ

不破重家

春の雨をかくまひてまゝに

まゝ

池田成之

春雨のまゝに登る棟の柱を枕せ

まゝ

春日 寺田守日

腕のまゝに為知由知月の影

まゝ

河田清三

座乃綿のまゝに舞の能を堂

まゝ

温後縁 梅山保友

名箋やまゝにまゝに

善田

細田

何うか好の古や 田舎と御上萩

蕨

二本松之也

う海人の手と足は小なる蕨也

善駒

良唐

春の野や人乃心色故野の弱

蝶

善言

猫乃糸蝶の目より小摸り正

多文正

舞蝶も花らかり也春の陰

堪者

小谷善成

けしやる秋風葉立也堪りた

産子

不破善家

軍より人春之入る也花の子

菓善言

福居善正

かけしける菓善言や花の緑の

木より眼 瑞百政安

山松乃より緑子也と花を候

柳

上野善凡

兄としげゆよらんかんとし柳葉

草餅

善言善久

せは路の遠のありといふも花

善言善久

ひまわり花の善言善久

善言善久

善言善久の餅や遠のゆき

善言善久

是の又かといふも花の餅

善言善久

桃柳花穂も草乃乃と地

桃

善言善久

花のかと花とや花穂の善



河邊老女

吾日や花あはれぬも乃酒

申野安次

誰かといふ養ふも母も星の桃

椿

福居三昌

紅乃花若性る者凡やこ人

辛夷

本村東及

花いさかし及る者若し雪雨

金錢花

服戸信真中

風小若や笑ひ子貴金錢花

花

紫垣下琴

氣ハ先ハ所も若也凡の性乃

今沢孝宅若

陽氣也若も又乃若る若の

加川定辰 花

花凡小より板と若下り板

堂江道若

咲陰若いそ若も若る一本

若林良久

目の輝出若も及引若る若

田村勝延

若と若と若るやひい目春の

堀倉左頼山

若の若也若乃若れん若ころ若

若と若

花乃陰若に若を若里に若

色利以由

花の種也若との若の若の種

若言

床根若ゆえん若此若若自

若言若之

若自若自心乃若此若若若

昔思伝元

目も枯き見ゆるや橋本乃木の

思西惟中院

花瓶や人の心入たるる

注泉友知

やもやもあふくまふくまふく

本名弘次

生花の命は花は替く舟乃水

森重正

世もいふくまふくまふく

御田原下

世語もくしきもたふ木の香

江戸の記

三吉野や花よしきよしきよ

佐々木

世の世に芳野もくまふく

如春

花といふ遠きもや芳野紙

押川三畏

亀山の花は心も浮く

山崎

足くろ小走る船屋の花見

津田継永

そな花のそくやあふく

板野

昔城の花見はききき

秋山

昔城は花もあふく

石井

右や筆花の手持くれの如き

林原尹純

種入るも二人棧屋そ花見路

津田彦平

花盛一年中此酒代々

加藤玄瀧

花乃下也一と云て也小

福田辰村

月花也名示くの百

素川重復

深千壽石又繪合の月空花

冷泉友知

廣小苑昼八月尺此

津田彦平

月花也名利の和此

竹下孝丸

六花也和毛連也花の

山形田世西

花國幕串るぬ本

西村彦彦

多和子庭遊遊る也

佐々木直玄

身は是朝の花此花瓶也

兼田茂綱

客人を朝乃花此

西郷忠心

唇をよとと此花の

高橋周元

尺袖毛袖垣の中

山崎了悦

花の細やとて世風の

倉田路泉

花の喜も風の便

菅川時貞

花小所也さよと此

柳原尹然

風山花志のまらるる花芳路落

中平好

花と乃る花葉より眼花道

井持友静

ちる花や苔花のしる花おれ久

本島弘順

鯉母乃和鳥鳴とや花乃風

柱村真盛

河海より花の流りや三子連歌

三子一燈

花の流りや是も春老と氣の葉

新原如醉

風乃書小舟も阿らん花の

日 流

花の流りも小鮫小負ぬ人もな

金沢由次

入お花のたのまのど花乃声

不破一真

花小鐘かぬ小那磨こ白拍

如古清永

花 子 桜田や詩子此種哉幕の

本島清孝

桜田や只う一人の哥此たぬ

思西惟中

海橋や明もえん善子桜かち

仙豆堂

橋戸や掛金元をぬ花はち

本島恒下

不狂人も走るや花の桜川

長徳

花火の竹小けり花多花

之野一燈

下伏やとよみの念老児程

申村自延

花のまゝの流法やまゝ人見程

寺田守昌

多あひの情やうらみのちと程

加古清永

いせ程かすみの神此いそ程

若田可之

おんほくのたきけそ及んいせ程

森准玄

火程ふかぐるまや一皮乃と

堤如難婦

氣を晴るむころる處まりと

塵言

楊子宛よ醉國中やむ及程

権守富也

虎の尾や虎よまをけしむの

権一翁

そりの毛れむ小吟詩人等

伊勢村心定

狗舟小まよまを知らむ人

風虎

山の形よおこせまをいっは程

竹下孝丸

ちのさうのいやくむらまをいっら

桂田保行

追りし三葉のそ花やま程

藤 風虎

緑乃流るやあみお生む二本ね

白根徳政

花の下にあらむとむいそ人等

山村法因

古庄くさるる小舟る早虫物柳

武田一風

口をいふる白力及た女や春の

石原三利

花出春春の波百地加可也

款冬

多文文口

款冬此龍子及岸也今世水

菜摘

貞音保之

摘菜の能き字路より地

春時鳥

風虎

春鳴や声花をやる郭公

永日

津田法下

春永の朝小叶小田加那

竹下孝相

砂丘を行来り春の日は母

夏

更衣

余花二

杜若三

牡丹

芍薬

風車

美人草

一八

芍薬

灌佛

郭公

競馬

鶯

菖蒲

麦笛

开子

梅雨

五月雨

栴田

金银花

石竹

百合

常夏

五粉花

百日紅

蜻

蚊

螢

蟬

獸狩

蛸

夏月

祇園會

湯島

昼顔

瓢箪

瓜

海苔

菖蒲

麻地

扇

暑氣

納涼

清水

雜夏

耳部

更夜

津田清下

春と名や隣阿世の花更

尾尾満親

法立るまもん 葉之の輪成

金花

水路林元

西くちの十金花のまこと

杜若

吉田信元

むすねのやふの八橋杜若

牡丹

海辺重徳

花も人毛風を十九や廿日草

文徳のまこ

中壇や竹此ふあることゆき

芍薬

小沢流下

芍薬やせある再もやげん草

風車

為東和親

風車やまのこめくれ花也

美人草

白根徳政

果るるの自人の玉や美人草

加藤辰松

あやめゆもよたの川よ美人

一八

三井時次

一八や二八弁乃花のうら

史葉

高野五重

昔そやまきと葉をせめて手物

灌漑

尾崎宗成

世に竹あゆや知花れ重佛

郭公

浅泉友知

重垣やなげの知花れ時香

深沢時務

短夜山待草やしりやうら

櫻井玄政

詩一庚不... 城懐多見

詩多... 西村... 藤原...

東... 神戶...

高... 寺田...

中... 堀田...

三... 池田...

一... 唐...

月... 清川...

中... 富田...

生... 辻良次

其... 井上...

初... 藤准...

時... 石原...

據... 秀雅

親... 能...

我... 小谷...



志やうしよと申す事此葉や何の

行下事也

月の事出さやえよ小瓶とて

郭公名と事や河を木玉堂

競馬 安持も出さ

祓と事とあるかこ競馬也

整 花言

そ花楊枝角くも経や芦粽

後存之也

芦粽歌波の三河宮五日也

着井衣頃

似たりく行子さるに糸粽

本葉を茂

祝儀とく顔色如るは粽也

昔蒲 店內之位

祝儀とく湯毛引行さあや也

山名満親

常事酒出るといふの事は此

本畑定也

書ありく乃た去らぬあや也

多久去正

五月雨の古屋の経理と事や

麦笛 本村白屋 中

孝笛と事のも昔れ事と事

形子 安持も出さ

家の子も多し事いふ事定の

梅雨 法言

水や事平河の事も梅雨

五月雨 伊豆事也

五月雨小浜梅を五月乃不

花言

五月雨を肝とやする梅雨也

新地口

五月雨や余の音無の澁はん

茂家うら 月

五月雨の声か増え田平うら

植田 木村包茂

雲の端も毛もささ下田桂

上村之目

雲の里を田うら方のうら人のうら

金銀花 山平光吉

吹風小指茶たもや金銀花

吉豊信元

金銀花あふく庭やをくはる

石竹 廣野合貞

是や蟻乃糸のふり此石井

百合 寺田守昌

めらりある時をば將立車ゆら

新納次

かゆそと高れあふれ車る百合

伊勢村心之

ぬげからと威鬼百合のあふ花

常夏 風虎 哉

夢なれ花のあふれや土用子

五輪花 義作之住

花入の口ありはすやへはの虫

風虎

はむや先心を染くる屋小の虫

百日紅 渡辺五介

咲もそ一木の行花を百日紅

詩 必登云

吹干の浦に此歌毛明石地へ

丹波蚊屋尺屋や丹後の草物

蚊 小池又策

うさぎの病ハ枕巻紙と蚊巻紙

近江白布

餅屋のて蚊帳ハ有る文子

中村毎夜

竹子の山崎とてまはるく其蚊

言故 身

鬼蚊とハ入ぬや帳の空大王

周元

蚊の為小治と敵や物に成者

林宗申 扇

鳥羽の産此孝行や蚊屋此外

田舎

月いさふ鶴飼と裸と空と虫

吉原

月夜小の垣更と風堂とな

西海

月乃形尻とそそ中一花堂

吹田吉勝

有虫の中や秀とくやと虫

定村良忠

高尾其ハふり方とれやと虫

坂倉不語子

虫と毛敷とよみ物や字の定心

小栗信良

風の音此堂とてとめとて

女思及言

堂史とてとてとやと治と熱と

夕口 橋

堂尻や庚辰の巻と加と子

浅田宗定

此寺此蟬や佛乃翁此経

不波重家

毛あげぬる蝶をいそぐとち

林原尹物

を蝶のまゝもやをまゝなむ

獸狩

也宮及云

鹿乃今下さや風あはさる物

鮪

魚名白鮪

馴ゆるや桶のたをふも鮪の

林元

鮪

箱桶小石をふらぬ魚も

夏月

中村一安

春の月朧ハ虎也あやま

似閑

柔といつて暑氣やきやと

室也

の月

月もさぬ布引涼

妙室

本海堂氏

左に書田といふは物や妙室

祇園

法人云

祇園をいふ書して花院跡地

湯屋

中井正成

坊雛くまらぬ東則と湯屋

昼飯

小沢下

人さるゝや昼飯と中

瓢箪

女也

夕飯小瓢と瓢箪や玉

川村

つうたんの千や皆一川

凡

も

う海山を羨歌もや

海山

日野好元

海山序もかきや後の浪枕

田村勝延

浦松守や此世に命を捨る相

蓮

は本垣下聖

蓮池のそこのら糸く流せきこけ

麻地海

金沢由秋

碓く舌のまろや蓮麻地

扇

石鏡虫心

甘めとく扇や風の神おろ

真方保之

銀指の又や法しを扇く

小谷常明

寸のうもをまぬ尺の扇く

中野鉦友

ちを波月此扇の杉自く

竹下孝丸

風の神見やあふとと未終

稲本重三

手捲の風車と名持扇

次房之也

繪小虫や扇の風もあ七

風の奴をのこひらくや茂老

朋之 扇

汗をぬきうらまを扇

三云雄

星交日や風を扇の馬此身

押川三畏

白雲とやも猪沢とあそるら園扇

路守政安

木を扇をよむるやまじら加又

源也幸亮

う治川の波も網代もうあは哉

日暮氣 山崎高政

かく汗や志のやとぬる日照雨

大塚常信

研水の出花を地らぬ風地子

津田彦平

暑や三不風の葉を氣付

松村正恒

吹風の子小阿まをさる黒き

納涼

尾形龍首

涼風の子小阿まをさる黒き

新倉友我

奥座し涼風の吹二所の雲

定村良忠

涼風を月小阿まをさる黒き

田田政倫

夕涼を橋よる世こそ海月尼

山沢直下

橋板もわたりしを今も夕涼を

甚なむ久

出く涼め宿といさうれ橋の上

竹下孝介

河を我流して涼一岩の肩

権山深友

河系小涼三の陸や床の山

井上秋庵

河原や石を流るるを在在

中井正成

涼しんも東座よりやる在

清水

若原信元

雲の茶屋汲し涼水くると

山本信久

結みある名所まう世の徳

難友

若原信元

切麦もうまげをねや適の

秋

初秋

秋堂

秋

五葉

草

岑

女

草

名

麻

名月

本

葉

雜

一葉

烟

亭

玉葉

朝

朝

秋

秋

秋

十三

秋

秋

秋

七夕

花

玉

揚

秋

秋

葉

葉

月

月

月

秋

秋部

初秋

秋

身より秋や来ぬらん風の音

李田宗綱

秋風の便り来ぬらん月

柳玄雄

暑きと云ふ去る秋乃之月

氏田一志

秋風の手筈阿世に秋

一葉

高田稔世

一葉や秋のまじりし秋

七夕

葉やよに秋は天の川

貞方保之

早合や阿そ秋の心

秋

中よるも延き早の逢る座

柳原尹松

早合の紅葉の橋やあはれを

西翁

月の七日輝きとて星は出ず母

望山言故

星合や借老当月七日の夜

武辺一風

一夕を七夕といふ地手りり子

佐々木建好

逢時を心やうらまはせ七夕

紀星自笑

織女小かきと月儿や一店切

子守風元志

梶乃葉小あさや葉らむ人さす

日野好元

雨小星かきとれたの橋もいづら

秋螢 左息彦元

秋や螢片尻けき 稲道

蛸 小倉守直

日々くハ蝶のかりころもぬけ

荒火 京田貞伸

人を招く為乃荒火也

蛸云

筈ぬく 現我あらしむ世也

伊藤之也

氣の葉竹の葉の花かた

露 淺田一車

五高の草はたけしれかき

西翁

風を去け葉蘇の葉よとけ秋

雲 小倉孝成



さあると花きりしはる嵐

寺井破扇

雲音いふまを地勢引き路

新堂橋

月の扇入るや音此籠松山

生助玉 日影好久

是も貝此二親いふ生助玉

魂糸 井川貞忠

親の為子あそ宝乃玉はつち

うら多入小急想代おとや人心

揚灯籠 横山忠孝

今も多入小急想代おとや人心

揚灯籠

菱飯 安藤了

鏡と飯や月 菱此えんの物

踊 文橋国之

尺物ををさす此子の判者

西翁

まより子やまのあ髪海鏡

小谷孝明

流石汗流をすそ川やいせ踊

秋系貞之

哥此ま海あそすく子三鹿

相撲 寺田守昌 踊

自力他力おむ節をぬ撲

三畏

河原みはらまのい足のまこ此

三木定之

西貝哉砂子まのあや扇ぬ撲

那山守静

はらまのまのい乃まのあや扇ぬ

山沢流下 撲

奥北多哉取や名古曾此云

岑入 淡人志 正平

岑入や吹身此音山よりし

葦 河田清平

朝多し榮花い子世を行田

倉田陽泉 垣

括多し足と飲るんと章中

仙相花 大槻純平 花

練葉より高きあらうと仙相花

駒井貞盛

御守と風やうらと仙相花

女房花 森准吉

為音哉几帳乃内や女房花

女房云

花籠小靈眼女々の女房花

雨原英隆

世心や高おもふ此女房花

多又摺物

娘花小その女社と女房

花 音故 也

至玉や目小足と花花の音

林元

白高き地々あまむる小花

河田宗永

高小日本習書と小花

葉

瓶やらん葉の重あ鉄と

内着未及

茶小瓶是色射麻香の火山

李純年表

為袴系束乃高うつく

李江道吉

為橋上ハハ葉草や對乃ハ乃

多クハ文ハ

為橋上ハハ葉草や對乃ハ乃

草 志在木文 草

昔花といふも余は昔は昔路

草 志在木文

をらと白き花は花の作は花

志在木文

吹くる風や花を花に袖まき

江口船文

小倉よ花も花も花も花も

小倉未来

那須路のくくくくくくくく

中村花文

白鳥やふらふら花の草

小倉花文

目からきく雨の日も又きく

小倉花文

山々も花も小倉花文

小倉花文

姥崎の跡を花の小倉

東垣下路

海又く花の波も花の波

葉山花文

月の花又花も花も花も

林文

千里のくくくくくくくく

西川花文

花の乱花も花の乱花

白方花文

平砂のくくくくくくくく

横井路双

芦原此丁や文字をり大和

康 跡坂正徳 文

笛子よる康の意を死を裾跡

山崎了悦

娘萩や妻と小鹿乃中皮

約定 日野好元

お坂の葉屋や約よせ月

中村一安 康

庭洲小翠もや甲斐の約定

月 池田克重

文月小柳やもや甲斐の約定

吹田舎猪

天と水の龍三ヶ月やいの字

横井路双

本位の記を柱ヶ龍を三ヶ月

唐路金丸

月の魁を重茂の三ヶ月

有松英明

秋は唐やも路の三ヶ月の魁

黒田道長

晴る唐の雲切のや月乃魁

中村一安

月乃魁と尺のなりの中二

冬蠟未だ

天國の出来物るる月乃魁

冬路一燈

宮との小を月乃入や月の

中島親直

人あふる夢公志の月の舟

本中惟庸

登る猿もや唐甲乃月此舟

三輪光弘

表苑跡北高をい月北小宿

菅谷合頼

秋の金月や白丸のます鏡

深友

三首のひみちをみりて

竹下常光

蟻の足もやの能登路北秋の

大塚由可

本橋の月こそ和言北秋の

忠言

出る月と本橋入ををりて

三思

唐迄をぬたを月北と出く

小栗信良

月を花よりふるくらを平人の

深町隆和

立寄る大木を物小庚の月

河田隆平

吾後ありん乃月北置を

静室信

尺とぬ月や玉をの袖

毛取信次

今日なるをよまけこ子指

各月

倉田政真

先皇をる下和々あり今日の

横山忠孝

短げと今日の昼小亭秋の

竹下孝光

威光を名を事北秋の月

清平

月とよみ詩ををのよ北の

高故

月あまた山州の月夜るる宜

中井宗隆

月と雨のまじりたる月夜

おん人志る

月と今度の月夜の中

冷泉友知

花由りて三五の月夜名取

草

日乃ちや又名の月夜杜海西

十三夜 李村三恒

友途なる月夜栗の伊豆の

村元 守

人の心重なる月夜

碓 奥田政之

紅巾一毛の月夜

池田克彦

月文てうと歌詠やよるの物

服部信真

うたをりて書とてさくうの詠

本實 甚尾直久

志くしわらうこの夜なるもの

あ井松彰 書

不意小袖もあつる白の月

女良子 白子保之

あつたことお出の刻らる

あ井松彰

是中又念珠の一吸ふたは

草 西山西翁

あつたもさ干雨の晴るあ

山田佳種

あつたらや芳路は清き物

あつた保之 物

天狗草此調葉中よあま

菊 山長 廿二

さく桃今日いさよとてあま

村塚全を

八重菊もあまや四三此早免

は村一光 夏

目の下のる月早や菊の意

鎌倉女醉

樽さく此調葉中よあま

中西了安 菊

名譽うや名酒とあま此意

多久文口

あま此調葉中よあまの酒

高田種世

菊の調やいさよ海の泉川

色葉 神皇心

さのつららとあまの意やあま

畠田孝方

あま此調葉中よあまの酒

ト琴

あま此調葉中よあまの酒

佐々木通好

あま此調葉中よあまの酒

幸田守昌

風の季小あまい色葉やあま

色葉 多崎且久

あま此調葉中よあまの酒

西三郎

あま此調葉中よあまの酒

中嶋親宣

あま此調葉中よあまの酒

加古清永

秋もこれあやえい山の綿女

竹下寺

五葉指無ころ居ぬ酒の間

下村一親

紅葉もあやえい城跡今も序時

煉田

今村林昌

雨

山田小吉法函一層人の海旅

小池又兵衛

稲妻も指の菩薩の思出哉

おきま

下とくもあやえい秋年

雑煉

大概冷年

重小峰の風乃子あやえい

あやえい

秋風も給ふもあやえい走り舟

あやえい

初冬

時雨

栗

帰花

山炭

燵

燻蒲

頭巾

紙子

被

蟬

餅

水多

雪

雪

河

冬雪

年忘

餅筑

除灰

栗葉

雑冬



冬部

初冬

福井守昌

雪覆ふや吹風杖馬乃平

松定三郎

風乃目の手合や雪杖声

岡山月信

雪覆ふく音短ハ風の小音

雨庭翁 松定

五葉の冬も雪月といふは此の陰也

時雨

竹下孝丸

五葉の冬は雪を寄し初時雨

粟

服部信貞

銀帽子は泣きそ橋の雪乃

蛸吟

松

雪乃の冬も雪の銀杖橋乃上

寺田守昌

秋と春の中はちとて雪杖

岡田清

雪杖平小立けり袴の声

安藤来子

築港小今立物や雪をり

寺地安可

雪をり雪乃雪の袴ハ雪乃

竹内有時

雪をり雪乃雪乃雪乃雪乃

松川東高

初雪は先雪自やし朝の雪

時雨

風虎

時雨を春の雪乃雪乃

中宮雨宿

時雨を雪乃雪乃雪乃

炭

寺田守昌

墨又純白くあり申す炭の甘う

田智勝也

炭之由や音とらん担じ黒燐

担しる故

灰白くなる道りける炭火也

深沢時徳

らんくやらんく炭小瓶文

東田貞伸

是の如くもろくはる黒麟

近者如河炭

獸乃炭といふ里の灰色猫

無名親國

老人や子小然寅小至火煙

京唯心

童も又炭の如き火煙の子也

廣路金貞

二人痛みのいん火痛れ甘う

煖蒲

甘き言

姥

湯のよめ又目のよむるたす

頭巾

山田二休

女

字よるゆるる中やうおふ

木村未及

身より此山りかゆるるぬ頭巾

紙子

若海未澄

書やまれば小形穉なる孫子

小倉那之

分貝もあつふ福の切んと申

甚毛本久

うらむらうふあき重乃孫子也

舎

三輪光弘

ふす海にそくきりかきり

水沢正治

後傳のやまよふよふよ

堀

本村幸雄

い世人此堀さつとやる捨る

横井路双

横も堀も皆うみつこの類女

堀

塩川如白

包了小先築立や丹後守

如白

本村幸雄

浪節や出入小宮も子守

林路忠知

幸誠や羽白且鴨赤かし

本村幸雄

是く出るや能ふ鴨の赤頭

唐吉

喜も又唐や鴨の入るる鶯被

山川幸甫

外傳の羽北家や劍乃

小合孝成

ふもい平家小敵を駿河

如白

林路忠知

是もや又出ると忍流ぬく

如白

河田清平

初雪の北より流るる

林路忠知

る白下地へすも

林路忠知

朝敵や刃をくら

山村清風

言と明とあるや

林路忠知

月一法又面白

中村幸雄

分見り家の多からや雪月屯

多文文に

数成退や月花の香雪如屯

伊賀一平

冬毛雪の花小変成菊枝哉

平之山雪草

からくや星の心も雪如屯

寺田三昌

餅雪も味もあやうある

本林准吉

後身はあけも乃を(あまの

清平 雪

結身もや雪と流りて雪士

近岩 の山

山ふし根もあまのころ雪の

本村三恒 花

つ富士小細りく此雪もた

無名な我

余の山や天地黒白や此雪

後人志

筆乃雪もあや此雪も馬

塵土 合羽

乃けそけの雪の程も雪士

新元 雪

あふのやなぬ雪も雪士

新江口 乃雪

強ゆる雪の雪や雪は雪

能合津園子

月代と雪目もあつも雪

竹下常丸

雪士の雪あけあふ雪の白小袖

美城如作

いらふあひのりから書かすかたし

内家書

まつりなる書かすかたし

綿屋文書

是も又子に付書かすかたし

本村准書

面白と云ふ心

古田不斎

あはるるも能く書かすかたし

井上忠時

足跡を尋る書かすかたし

多の取書

書の世界

派

書云

書かすかたし

福井主昌

源も源り

竹口直元

十の枝

福居書

送符と書かすかたし

高畑市隈

法めさすも新よよく

冬書

高井貞國

書かすかたし

一志文書

通の内

秋聖王英

冬の中

年正心

井上直家

年北内

餅類

泉島一三

餅もたぐし所成権杆の是れ  
除夜 松山見流り宿  
越や老をかむ方此は乃敷

天井此四書赤さるや除夜の  
津村村正定三豆

是乃の夜に四房子たしの念  
山口家友 身

川口乃格や尼ねふたぐら再

年波と波るるは此夜に哉  
川口赤子

除夜の舟念乃うらと物名  
兼中惟

是乃此舟哥ららん之病を哉

時世新遊加

春部

又 元日 康吉言

湯雲とや礼のうら流く今日

風虎 乃吉

社老もや行り袖に花の春

吹田金猪

孫立名都乃是此ら世乃

哥 思女評 吉

若るは月一ころこそ子世の

縁乃とら作如とほる更ら吉

文 穀也り吉

麟なるも系初此弱更ら吉

山中存夕

主や難そらん是も宿此吉

京永治

童心失ぬやえある今日此

月虎

所承あつて取やめやふと

色已注をさるやと秋の

鶺鴒や鳥となげも色ま乃幸

面白き人か何に玉の

来るは世成るるやと世の

川堂や余ののそま成か

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

月 踏竹也葉子 朝の礼老

哥 村田利清

五葉七や雪のふり乃書  
月 武野燭燭

まゝ雪のふり乃書  
月 踏哥 大徳梅睡

遠小掃地人踏雪  
又 大徳長 詠山言故

白如扇のふり乃書  
月 雪 思也

雪のふり乃書  
月 雪 林宗南

雪のふり乃書  
月 雪 木下氏

雪のふり乃書  
又 保之 雪

雪のふり乃書  
雪 雪

梅 月

梅花のふり乃書  
雪 雪

雪のふり乃書  
雪 雪

雪のふり乃書  
雪 雪

雪のふり乃書  
雪 雪

雪のふり乃書  
雪 雪

雪のふり乃書  
雪 雪

雪のふり乃書  
雪 雪

雪のふり乃書  
雪 雪



さくらんを風のそよぶ手打

木目 井上可成 氏

木のあや一すのあはる度柏

木目 林原良若

むげとくしを節々を庭子

新橋久宗

築造やぬりちをけりち層

山目 磐 友浄 喜

お型や一すいたのく思

自延

出型をえんよるへのあせ

多 二日灸 高故 氏

欠すをむき通れ古跡よ古

初 新能 笑粒 甚

心をふるらけ木や新能の庭

温盤 本堂宗派

小佛お別り申せ中なる書

多 田螺 小沢流下

田所えんよるのまたる

月 馬刀 守昌 瑞半

馬刀とつらと志あるも料也

猫書無 喜の成

日 竹下孝相

細きや油色名りの猫の

村田 守書 喜

書あまの雲や元障子猫の色

多 蝶 廣野金貞

花小蝶おれとすれ猫の

ト契今 声

ぬる蝶小手抱さる白款也

好元

をの羽や白をぬ干蝶お孫

武田一志

兼てふれ時や扇の如紙より

序一唐

序一はまぐ系より廿五けん程

うそん

作進不夜

うそんはまぐ系より廿五けん程

遠餅

小石台立餅

青くはまぐ系より廿五けん程

浅田一車餅

うそんはまぐ系より廿五けん程

哥 桃花

西村義彦より

うそんはまぐ系より廿五けん程

市界別原

うそんはまぐ系より廿五けん程

三途湯

星女草

うそんはまぐ系より廿五けん程

武田一志

今日といふ桃の才より哥書酒

茶摘

一山

枝燈

うそんはまぐ系より廿五けん程

うそんはまぐ系より廿五けん程

うそんはまぐ系より廿五けん程

花

柳里第入 柱

うそんはまぐ系より廿五けん程

西野重油 雲

うそんはまぐ系より廿五けん程

岩根一二餅

うそんはまぐ系より廿五けん程

越前香燐

うそんはまぐ系より廿五けん程

如春

うそんはまぐ系より廿五けん程

哥 旧田正能

所ハ田之中心者為之四方の  
之橋親信 花

是中ハ老若ハ之矣又花ハ  
阿多志原成

野も山も花のあふや破的  
兼原盗園子

花乃散心や月乃丸如見  
日野好元

岸て見る花も心やこころも舟  
多内友や

哥人や花をくく重ハ物象  
不栴子一雲

花小幕帯年重持の枝折哉  
津田釣舟

花とや地世人定よ酒と月

沙門慧後

給合ら明石乃月小次ハ花

産田不坦

京元より田舎ハ花野ハ花風

思女世淨

一二と三三昔路の月と雪

瑞澤可茂

あつた物の内小玉ら花の

中井宗隆

百病乃葉毛ハ花乃月

秋葉是等

叔毛花ハ阿多ハや山ノ

哥 橋

多内友や

橋もくまもあつたハ地鏡

石川龍重

花ハ海もくまもあつたハ世橋

兼原盗園子

子持 志之

心通のよらる花や海勢様

吉原 如雲

寂中此日とも京と八重様

京永治

夢野之代持も多き連さくら

奇 藤

池邊 成政

心あらん人よん世極や春の門

月

武蔵 末綱

春の棚や水も空に花幾

文

中村 毎夜

うら座愛治まかとも春の柳

左沢 宗流

花の波市と名もや藤乃柳

多 様朝

氏田 一志

包丁も空哉せ切や様朝

逸加夏部

少多 余花 林 宗甫

宇治の世もや春葉の舟も

茶中 龍

奇

風炉 茶

新川 江東

茶葉もや種もあそ招風炉の

月

牡丹

梅本 定之

此もよや紐も取あへど牡丹

芥子

石 及

後之袖もも花や我々の芥子の

櫛

江口

刺も白も花や座敷のやまも

花 袖

保之

盃の白も白も花袖の那

奇

葵

良 菴

花乃陰志等しそと直菱

短庚 秋下一等

夜の座や思たて板子の月

郭公 良電

待夜事や昔昔のあけつきの

いづれねまらたつきの昔代

哥 平山久元

細布の待むぬるあけつきの

西村義彦

春の後の一はとちえや郭公

多々久久口

唐牡丹の葉の戸や郭公

中島三郎

春の花吉程小なや郭公

一はとちえを懐りの郭公

河合若丸

一はとちえ人の夢の山郭公

葉門慧後

あけつきの二夜つきの

陸人あか

忠の胸赤ぬるや郭公

思如萍

月 時多の紅葉や月もあけつきの

竹口之敏

月 身果報の森よと此邊の

西山西翁

茶世渡屋も心志てまげつきの

歌 諷鼓の奥田也吉

歌 平山久元

歌 筑戸あふたつたつや子観

津田釣舟

多 日蹄好充  
又きりや志望の座樽色

舟家

魚とれの中と臨はる地組  
地組 守四一を

穀 徳元 舟

肉重粒小重九重此菜菜

又 菅蒲 左用由可卦

新由ふく菅蒲や乃可下

多 境利欠乃下

滝女平ん尼杖堂物や菅蒲

月 高故 大分

活有各河蛇の箱も高ふ

梅雨 大波梅睡酒

梅乃雨や衣のくん此早下

喜梅 一さあ真

栗のまのまのまのまのま

多 田植 江口 梅のま

衣手ハ隠土粟花は濡流

又 百合 風箱 田う露

金玉の名里う高此車百合

秋葉見木

白伐平山鬼と此早あも

百合のむ

夏蹄 服部正勝

草此上成菅紅草あわく高蹄

常服る木

追善 徳市之任

此早んこまを本む草此

世の不立

帆 蚊 小橋了悦

蚊甚加とあまろく此子雨中

平田輕元

蚊柱や四月の四月十五六月

思ふ如く

紙燭やして法燈をよむ

蚊屋の内

多

高橋周元

空く暇ぬ国乃階より狗蚊帳

月

外村長吉

螢火をよむに安寝をたかやの内

月

高橋周元

虫小入やさげのからたをなま

螢

高橋周元

螢火よよめるに我れをらる

多

塵土言

垣木は花をさげの螢をい

祝

西村良吉

螢火をさげ乃中をのい

高橋周元

螢の輝や今ら螢をさげを

祝

栗田復春

螢火をさげ乃中をのい

多

高橋周元

いぬやれをさげの螢をい

多

高橋周元

金泥の砂ら螢をさげ乃中

多

高橋周元

水小流螢をさげ乃中をのい

多

高橋周元

月の螢をさげ乃中をのい

多

高橋周元

螢と白かたはや蟬をい

多

高橋周元

交りての蝶の如きやまの如  
又 富士詣 伊豆之や  
たのみの煙くらふや富士詣  
多 大窪梅屋

松明を雪の老馬を富士詣

若野翁閑

うきやしの海やなれ富士の

熊布一書時 雪

夏は富士康子海へさるや雪

水田安心 佛

天乃名と心得てこそ富士下

舞 吉祥 水野村元 向

佐子のさるのや友とと吉祥

祝 切妻 加藤元知 穢

舟物をさるあかしのや切妻屋

寺 ころろん 河辺友久

下まゝる水小高宿のころん

昼散 石原正成 功ん

昼くちやふふ世は又午の時

ササ子 新山親信

鴨焼を小まゝる水サ子や見そ

高橋因元

サ子阿のやふふ家此は小粉袴

風 福井吉昌

銀巻の肉小ふくむり余り風

田中行次

包丁此は紅毛也目利まゝの風

帆 海山 河波水皮

前夜あり月をさるる女此夜也

草 河田宗清

魚小ササ下ふふあも草の

上田新三 扇

小松村



心も色も浮きも涼し草の

瓢箪 津田物舟

るうえんの結や子細子天豆

扇 昔高 の弱

書し百葉の意風馴る扇

詩 歌成

重なる月成随る扇

涼千童子

五月廿九日乃月や意は所

白雨 卯村也高

白雨や移る成足る天の

葉の 葉の音

涼れはる少合るれや竹造

納涼 津田物舟

暑き避る風の年先の力

哥 東田貞伸

戸障子をいひてはるる座

二三 葉

涼れは老の方人老乃風

浦老江置秋

涼れは田舎小京を沖乃

涼

換投はいも涼れは風乃

葉の 葉の音

格子は八時中あゝぬや門涼

三

河社 池田宗旦

本品河越の人よ

二瓶子三寸や河出え河社

追加

煉部

初秋

中村常忠

秋風の平中城出陣の夕

秋成

吹歩り此金書秋古の目乃音

待一葉

清人不知

そのと後より天下に響きし葉

小沢前下

養由り矢風成心より葉成

加波屋清徳

秋凡の子車より葉成

秋成

冠柳ちりりや岸の葉成

七夕

弘之

歌

七夕の音より葉成別六燈より

奇

卯村中尚

いふふ意此乱葉ぬる男七夕

小松一英

目毛阿をぬ泪乃雨や男七夕

八日

清人不知

後朝の文月や都の夜二星

奇 芭蕉

西村良庵

を世成るやいふ事より秋成

扇

是もを世成るよとや月れ雪

奇 秋葉河筑種 乃中

今之知胡櫛あつと秋成

文 秋葉 昔古如き

奇 秋葉より事なる秋の葉

不栴子一書

奇の種やるそくからるそく

舞 鯉釣 川口一吟

ささゆふふ行や自神の鯉

鯉漬 林多事申 酒里

小加子や種蕪を色ゆ加里に

汎 接待 舟浮波 皆

接待や今日云云立うる人益

日 大坂正法

接待者史密北門也若葉屋

施鐵鬼 古光院 哉

籠下に流る施鐵鬼も人数

奇 華飯 林守道 哉

聖王其北喰へ支重也華乃

月 禊糸 小台立静 飯

石より何れ尺ももぬるや西急

月 花火 吹寄る也

そと此林を以て果も花火哉

奇 女思ふ言

空て尺る隣乃方小若火哉

月 灯笼 高橋因元

吹月小去年此橋より花火

日 踊 本浦主哉

たや言や世の言候と一踊

月 舞長

紅乃ふ言あそく踊あそき哉

日 岩橋より歌謡一也か付踊

岩橋より歌謡一也か付踊

日 舞長

余は言らう舞長此座や本曾

舞長可哉 踊

舞長之や舞長作る本座也

文 池邊成之

たう踊言やの言と一も言の

多 相横 葦原宣純

御持姫成すもなげりなむ横

月 大坂一六

存風や雲吹く中の子まじりぬ

帆 鶴谷中岡子

樟弓とく力あし一肩お横

露 浅田一車

見くぬとあまもく世業やまの

右奈木く江口 玉

う心まきの千葉の春や南ま

多 遠善 如深 某體

春の袖よはらうまあく方をみ

月 雪 吉氏 心ま

朝雪小晴や存れ不かけし

月 女ふり花 舟波

秋の路よ花めたるやあふ

万葉 藤 柳原風笛子

友連う小秋をまをせ此望ま

多 金剛草 李津直氏

花の細時の春もえん弱はま

多 度路金貞

鳥の雲代油や路まを鳴中

鴨 市恩則次

稲ハ菩薩海邊や鴨の看経

多 舟波 不

かまきんや滑船の西をこ小田此鴨

帆 鶴 奥田心ま

花の穂領垣の春一乃ま音

多 橋本申恒

花らるる丁主人の春ま

多 小秋一寛

一層陣の竹をまはるは乃陰

初汐 山田佳種

初汐此鳴岡也波乃其世也

号月 卯村吉高

細字の頃村吉高物也月

晴天也 菊島 乃弓

細字の頃村吉高物也月

田代左吉

出陰也月也也凡一河内隠

思女持

提重此由迄康一屋月庚

津田物舟

此月と雲小田の月也

水野林元

赤為野下中末恒小月規

福井吉昌

廣沢小の月乃光也

名月 思女持

枕をんよよの月也其月也下

丹羽捨松

此月小月也其月也今庚

大坂の月 山口光俊

各月也更小人目此也其月

平戸英作

氣晴る小風新日月小雲也

鶴田雪雲

今庚天小心乃月也其月也

西山為翁

月中金とよの月一梅加子孫子

波崎草也

月と金とよの月也三百毎

太浦草也

出陰也月也其月也八庚の

十三庚 岩隈一二

小千代と粟名月の昔くさ

葉

佐賀木下氏

故川袖や是さる月此乾の隈

法下

新酒さへ袖さへ出あつて宿の

高瀬の如鹿

すまこ本に成るは漆も袖こそ

小谷立野氏

貴めりやあまの持さへ立菊

秋のけいふく長柄の物持哉

月菊 五野林元

子この縁はさへ此柄の紅葉

月 深之 加菊

唐唱しあを此花入やあは年

文 小谷立野氏

真いつらなる人踊菊此洲

月 内田輝貞

かろふより菊於指とあま

小谷立野氏

洲明く酒のねとやあま

若隈正房

早あつた小計そかきこの菊

例幣中使目尻乃酒

伴執とさあね乃手目例幣

水立野氏 金貞

かろる酒油あま紅葉此時由

文 若隈正房

さ津の山ら流けふるはやあ

奇 紅葉 西宮 相

あまのそとあまのそと(卯橋)

奇 思如母評

薄知小知人始之而五果物

日 貞言保之  
五果物小中や給る人湯乃

祝 磯田宗居 友  
長たいの小者持と流五果

奇 紅葉舞竹白之舞  
世中此人喜舞と云ふは

祝 跡入但次  
近江舞者小不照る元此

持衣 世海 ともか  
小原衣うのや舞舞只い

奇 流糸 一書 物子  
若連一 流糸はらゆ

追加  
各部

奇 時雨 平戸笑作

奇 時雨 天路弘之

奇 時雨 村時雨  
袖小 時雨 吾我心計

横時雨 蝶歌 自々日暮心  
若果 磯田流下

流花小 志葉のけや 友紅葉  
果 志葉 二果

是より又 舞之 三果  
奇 也田宗自

かうらひや 我々 田中 舞

松之枝や 果の 舞の羽

岩船一政

栗枯の跡一乃藤や白田用

多 野中 茂野地

都とて汗小中 藤取中

由海 藤取中

杉をよか中取中此の隈

由田輝貞

山海をよか中取中此

赤うらや野中此の下を案

境云推

赤うらとらふば系野中ら

森口心計

酒盆あり取中とPとを野中

商人と朝と加あらうとて海

哥 神系 水野林元

笛小ゆひや横村とせり小原

日 野中 如白 神系

野中と小野中ゆつとら

月 野中 野中

野中と小野中ゆつとら

月 野中 野中

月 野中 野中

月 野中 野中

月 野中 野中

月 野中 野中

月 野中 野中

月 野中 野中

月 野中 野中



草ハ蹄伏加座付蹄うけけきの

有次速形

えきやけや繪さるぬ庭の雪は

新元直形

風の平の岩小舟時絵や雪は花

蹄坂正勝

雪花は自らあも可也木と乃

任口 枝

雪水の竹乃白鳥節も乃

鳥長

音羽のささるい歌巾て雪見

風箱形 身

ふし袖も雪や粉雪は丸合

風虎 羽

白海もやなまといせる雪は

雪紅粉 西村良菴

時刻をいふ流さう流と雪は

号 鮮花 成之 へし

雪も花の雪はる果い雪

年内立まを并友は

雪を煮くたやう雪を煮くた

号 花 竹下まね 用

たやらふし鬼さゆりく雪も

号 不破一真

う山雪の鬼こまぬりい雪

号 歳暮 野村まゆ 身

雪やをるゝ我あやまらふ白の

号 雪如惟 中

雪あしきさる雪あけり雪の雪

号 親直信

雪如れ梅さしゆあや雪はく雪

白敷之事  
諸人不知十九

宗文住

橋中氏	富長	中井氏	高隆	高隆氏	橋山	小谷	井物	高浦	高安	井川	貞吉
廿一	廿一	廿四	十三	十三	八	十	十六	三	三	三	二
高月氏	高吉	福井氏	高昌	高川氏	山中	中村	月	池田	井上	井川	貞吉
一	十三	十三	十三	十	三	六	二	四	二	二	三

渡邊	山形	津田	李江	度路	三井	井上	小路田	竹生	山口	山田	本村
氏重	永治	清平	宗源	金貞	時次	宣安	西	雲行	老後	佳程	重經
二	二	十九	九	廿	二	三	二	二	二	二	二
大海	谷口	高橋	朝江	苗田	佐藤	渡邊	路入	高橋	山口	坂田	大京
常信	重以	親信	程寛	有次	政之	重范	組次	重次	後久	可隆	似春
三	六	二	二	五	二	二	二	二	二	二	三

春也  
定法  
二

凌  
瓶克  
二

山口  
文貞  
一

廣  
久治  
一

中西  
宗友  
一

針  
一  
一

田中  
子安  
一

高橋  
久賴  
一

井  
利直  
一

甲  
道  
一

三  
粟津  
一

兒木  
貞  
一

石川  
龍  
一

磯田  
宗辰  
一

神  
幸見  
一

永田  
宗宣  
一

上村  
之周  
一

神原  
明新  
一

西  
雲  
一

奥田  
政之  
一

唯心  
伏見之任  
一

小谷  
左都  
一

稱  
任口十二  
山崎之任  
一

李田氏  
宗細  
一

林氏  
大和郡山之任  
一

宗南  
廿五  
安長  
五

上  
恒新  
三

木村  
見流  
二

上  
見林  
三

包茂  
二

辻  
定猪  
三

明夫  
二

子久 一  
守静 一  
古思 一  
主榜 一  
今西氏 一  
分并之任 一  
未悦 一  
不及 一  
游 一  
草也 一

正感 二  
今西氏 一  
分并之任 一

葛音信 一  
去惟 二  
山村氏 一  
清風 二

資延 一  
和泉境之任 一  
嘉田 一  
意好 一

以春 二  
依田 一  
李安 一

系田 一  
貞伸 十二  
白根 三  
德政 三

阿智志 三  
南氏 一  
云順 六

池成 三  
池成 二  
池成 一  
池成 一

梅成 一  
池成 一  
池成 一  
池成 一

利貞 一  
池成 一  
池成 一  
池成 一

梅成 一  
池成 一  
池成 一  
池成 一

西成 一  
池成 一  
池成 一  
池成 一

秋成 一  
池成 一  
池成 一  
池成 一

中成 一  
池成 一  
池成 一  
池成 一

荒米田 森 在 一	龍氏 在 一	守 一 一	窪 田 好 一 一	松 山 英 一 一	沙 門 畏 五 一	押 川 氏 一 一	仲 賀 之 任 一 一	大 概 氏 一 一	柱 中 之 任 一 一
家 房 一 一	野 山 田 之 任 一 一	田 大 畏 隨 一 一	窪 田 不 阻 一 一	城 氏 氏 一 一	高 畑 氏 一 一	稱 氏 氏 一 一	野 上 野 之 任 一 一	松 竿 二 一 一	各 庫 一 一
田 守 正 四 一	勝 延 三 一								

悉 音 一 一	定 是 一 一	輕 荒 一 一	平 由 平 一 一	系 村 氏 一 一	中 津 流 一 一	近 以 仙 一 一	高 了 賀 一 一	亮 傍 寺 久 二 一	石 林 白 車 三 一	近 氏 法 三 一	一 六 一 一
衣 淨 一 一	正 信 一 一	吐 着 一 一	下 村 氏 一 一	上 田 氏 一 一	尼 氏 氏 一 一	屯 井 忠 由 一 一	谷 氏 氏 也 二 一	宮 內 氏 氏 後 二 一	氏 氏 氏 改 三 一	津 田 氏 氏 在 十 一	李 江 氏 氏 在 十 一

綿屋

文吉 一

吉洋

東沱 一

東瀛

一志 一

文朝 一

二休 三

陽間

朝熊之任

政安 二

菜名之任

近春

如何 二

尾張名古屋

橫井 一

野双 三

柳系 一

柳系 一

尹能 十

本尾

弘次 五

田中

忠弥 一

小宗

政度書 一

一志

文幸 十二

柳系

尹秀 一

柳系 一

尹能 一

鳴氏 千色子 二

曾我 心計 二

林 良平 一

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

不破 子 一

河邊 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

不破 友久 一

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

三橋 光弘 五

喜山

市猪

迫江大疎之住

子晴

直之

八幡之住

伴氏

只討

九口之住

桂村

真盛

河並之住

河守

孝女

廣根之住

張老江

里秋

西村

呂氏

出洋

津田

荒川

見月

平山

中鴻

雨宿

和親

岩船

一二

三

河合

花野

市

牧

共南

坂田那之住

満

可成

古

堤

如難

如鶴

加鴻

赤李

義徳波阜

富守

改永

井上

改永

改永

和親

改永

改永

和親

野村 二 紙屋 一  
堤 一 普滴 一

坂倉 一 竹鼻之住 一  
吉野 一

信濃飯田之住 一  
朝比奈 二 夏虫 一

下野 二 福函子 二  
由下 二 吉板 一

竹岸 一 倉田 一  
宗安 一 野泉 三

五十員 二 元志 二  
陸奥岩城 一

風虎 一 塩川氏 一  
如白 六

山井 三 山井 一  
越前 一 守矩 一

村田 一 村田 一  
利隆 一 正盛 一

新 一 須 一  
石白 一 東竹 一

倉田 一 倉津若菜之住 一  
政真 一 森川 一

家 一 稱 一  
貞次 一 室鳩 二

二本堂之住 一  
日野氏 一 日野氏 一  
康吉 一 康吉 一

好元 一 好元 一  
好元 一 好元 一





妙真寺 若按之住  
吹田 一  
含猪 四 二  
越前福居之住  
小原 猪良 二

越前福居之住

雨原 秋山 音竹 二  
釋 秀雄 少 西 賀心 三

秀性 一 菅川 時真 一

井上 露心 一 意法 一

加賀金沢之住

高田 稻世 二 宇路 一 燭 五  
智橋 周元 九

友井 由秋 三 松下 出之 一

友田 可之 二 加賀 是好 二

友川 道治 一 村塚 全無 二

成田 元 一 加賀 元知 一

深野 隆 一 石原 家貞 一

友琴 一 水原 一 加 一

入可 一 正治 一

安之 二 田之 一

韃氏 周幡多取 森氏

渥美 四 准 十

思德氏  
昂体儿  
小谷氏  
常明四  
过氏  
心授一

馬田  
道系一  
中野  
佐次  
出井  
空計一

中川  
雖云一  
買嘲一

笑經一  
笑崎  
且久一  
定常一

荒尾  
伯耆倉吉  
直久九  
東子之住  
福中一

加次屋  
淺橋一  
旧田  
正能一

有派  
速晰一  
修蓮  
不及一

素原  
盜閑子一  
福田  
道新  
一

古田  
不芬一  
松川  
東高  
一

隨宮子  
直玄七  
李浦  
直氏  
十

能宮  
半閑子三  
義作之住  
義作一  
備前  
山氏  
竹下氏  
常相  
五十四

井上  
長守  
七  
長守  
七  
惟中  
八

志賀 後家 七 牧野 了春 四

石原 正成 二 志賀 了春 四

加川 定信 二 竹屋 英時 一

磯香 英總 一 寺地 安可 一

木畑 定直 一 中野 鉦友 一

清原 定直 一 月清 一

有本 無分 一

有本 義明 一

吉原 信元 九 備中

竹内 為時 一 安藝 廣德

輅氏 似水 二 文治 文住 宝壽院 定直 一

山本 政政 一 山本 納次 二

山本 老氏 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

山本 政政 一 山本 是急 一

河上 春苑 一  
 多文 文口 七  
 瑞嵩 如閑 四  
 河並 如坡 一  
 岩村 桑介 八  
 江口 良忠 二  
 小田 雅良 三  
 素門 素賢 三  
 園路 慧後 七  
 重行 一

木下氏 三  
 龜野 他 一  
 石井 如自 廿四  
 鶴田 雲春 一  
 陣内 玄真 一  
 多文 玄正 三  
 橋中 中恒 二  
 荻正寺 一  
 園路 孤睡 一  
 明之 三

淺香 政武 三  
 能政 信貞 五  
 新常 久宗 三  
 肉海 玄真 二  
 石原 正利 一  
 三木 定之 一  
 茂田 如 一  
 茂田 細 一  
 上川 連元 二  
 多文 肥前水咲 一  
 愚溪 一  
 多文 後久 一  
 獨釣 一  
 如雲 一  
 池田 古元 二  
 江崎 定賢 一  
 過 不覺 二  
 淺田 宗定 一  
 桂田 保行 二  
 結守直 二  
 石成 一

二全三十七

平戸之住

荆田 自安 二 免作 五

芳野 徐閑 几 貞孝 一

貞方 保之 四 几 貞孝 一

武造 大村之住 深津 時勝 二

一風 三 長崎之住 佐伯 惟次 二

田村 孝貞 二 林 一貞 道 一

林 守道 一 内 貞 田 一

天 弘之 三 再 貞 久 一

律 久丸 二 三 貞 久 一

堀江 安部 一 菅山 貞 二

江 孝昌 一 菅山 貞 二

肥後熊本 菅山 貞 二

水 院 一 菅山 貞 二

中 信 三 菅山 貞 二

小 悦 三 菅山 貞 二

氏 志 五 菅山 貞 二

奥 志 五 菅山 貞 二

熊本之住 一 菅山 貞 二

二

三

西村	良菴	三十五	凌遠	一	二
寺田	滿款	二	中村	玄行	一
守昌	十六	河	常	五	
政倫	一	赤子			
法田	法席	一	智	院	
良次	一	壽			

取不知

張香 楓林 一

句數一千七百廿五  
作者五百四十一人

